

令和6年度経営評価委員による年度末評価

◎：よい点 ◇：意見・要望等 ★：感想・情報提供等

1 令和6年度事業についての意見・感想

経営全般	◎研究・研修授業ならびに相談・支援事業ともに常に改善が試みられており、県内の教育を支える上で、十分な役割を果たしているとは評価できると考えます。 ◎学び続けなければならない、というのは本当に大変なことと思いますが、児童生徒、先生方と取り巻く環境の激しい変化に対応すべく、それに応じた、さまざまな研修を企画し、テーマのみならず、多様な受講方法もあわせて準備されていることに、感嘆いたしました。 ◇役に立つ研修の存在や取組みが、「取りに行かなければ得られない」情報になっているのがもったいないと思っています。現場の教員との一層の情報共有に向けて研修情報等をメールマガジンなどで配信することについて、検討されてはいかがでしょうか。まずはハードルの低い県立学校の教職員から。 ◇今後、若手教員が増加するとともに、ICTの急激な技術革新が進んでいくことが想定されるなか、本県教員の質向上に向けては、貴センターの研究・研修の果たす役割がますます大きくなる。自前主義にとらわれず、大学や民間企業等の力を大いに活用するとともに、他県の好事例についての情報収集をさらに進め、常に流行をとらえた事業を行っていただきたい。
研究・研修事業	< 研究について > ◇各市町村の小規模校では教員の年齢バランスも悪く、校内でのOJT機能がなかなか発揮され難い現状もある。その点にも配慮した「OJTの活性化に関する研究」に期待したい。(出前サポートは大変ありがたい！多くの学校での活用が望まれる) < 研修について > ◎今年度も、変化の激しい時代に合った研修を実施していただき、感謝申し上げます。特に、新規採用教員の研修については、手厚いご指導をいただいたと聞いております。今後ともよろしくお願いいたします。 ◎教育課題が多様化・複雑化していく中で、様々な研修ニーズに適切に対応いただいていることに敬意と感謝を表します。 ◎学校現場の課題等への対応について、きめ細やかに各種講座等がプログラムされている。 ◎学校の課題等に対応し、きめ細やかに各種講座等がプログラムされています。 ◎対話を中心にしたリフレクションに重点を置く設計に順次切り替えていることは、受講者の資質・能力を向上させる上で、大変効果的である。 ◎本県教育の向上を目指して、集合型・オンライン型・ハイブリッド型・オンデマンド型等の研修形態があり、受講する側の利便性、また繰り返し研修もできるので良いと思います。

- ◎集合型に加え、オンライン型、オンデマンド型等それぞれの特徴を生かし、教職員の研修機会の確保および研修内容の充実に努めていただいていることに、感謝申し上げます。研修内容を知識伝達のみではなく、対話を中心にリフレクションの場を設け、参加者が探究心を持ちつつ自律的に学ぶ講座設計への転換を図っていること、「学校マネジメント講座」においては、年間をとおして所属校の OJT を促すなど、教職員が主体的に学び続けるための取組みが進められていることが、参加者の高い満足度につながっていると考えられる。
- ◎各研修講座の内容・方法は先生方の実態や時代に即した改善が年々進み、順調に運用がなされている。講義による伝達型の講座の見直し、教師自身の関心・意欲に応じた探究型の研修、ICT の活用によるオンライン、オンデマンド等の工夫は素晴らしい。
- ◎教育理念に重きを置く研修も大切であるが、その具現化には実践に必要な知識とスキルが必要である。「学校教育指導の重点」を活用し、実際に指導案を作るなどの研修は大変効果的であったと思う。
- ◎教育センターにおける研修で、中堅教員研修の対象となっている教員が、初任者研修やフォローアップ研修の対象となっている教員のアドバイザー的な立場になって行う研修も試みられているとうかがい、「研修を通じたメンターの育成」や「研修におけるメンター・メンティーの体験」にも配慮されていることが理解できた。
- ◎若手教員の育成のために、この度、現時点での改善策としてご記載いただいたように、キャリアステージをクロスさせるような研修を行うことは有効であると考えます。初任者研修は、時間、人、内容等が等しく確保されているが、その後の2年次、3年次のフォローアップ研修においては、これらが初任研のように担保されない中での研修となるので、ミドルリーダーを活用した若手教員の育成といった視点を取り入れながら、確実に研修の効果が上がるよう手立てを打っていくことは必要と考える。
- ◇高校教員研修での成果を義務教育教員での研修に生かす、教育センターでの研修と各教育事務所及び山形市教委での研修の成果を共有・活用し合うなど、これからも、県教育センターが、県内で行われる研修のプラットフォームになっていただくようお願い申し上げます。
- ◇受講者アンケート等により、日頃の業務に対する悩みや困り感を拾い上げる取り組みは大いに評価したいと思います。できれば、その困り感を学校現場にもリアルにフィードバックし（メールマガジンなどを活用して）、人材育成や働き方改革に向けた職員の意識改革につなげていただければと考えます。
- ◇研修参加当日のみではなく、研修が教職生活で自己研鑽を繰り返すきっかけとなるよう、参加者自身が資質・能力について意識し、リフレクションを通して研修後の行動変容につながる研修講座設計についての研究を今後ともお願いしたい。
- ◇より多くの教職員が研修し、教職員の力量を形成・深化できるようオンデマンド型研修の一層の充実をお願いしたい。研修について、高校教育課としても連携を図りながら周知に協力したい。
- ◇ICT 活用に関するオンデマンド研修の充実が図られており、今後ますます現場のニーズに応えるコンテンツが増えていくことが期待される。

	◇新採教員の研修に当たっては、まず授業づくりに関するスキルを高めることが第一と思いますが、学校現場の昨今の状況を考えると、特別支援教育に関する知見が必要不可欠なものとなってきております。現在も主になっ ていただいていると存じておりますが、今後とも引き続きお願いしたい と思います。 ◇多様化する保護者対応に苦慮する場面も多々出てくるものと考えますの で、新採教員のみならず、現職教員についてもこうした研修が必要になっ てくるものと思いますので、今後ご検討いただければと思います。 ★先日、事務部会の代表者とお話をした時に、新規採用者も含め、若い事務 職員の研修の場がなく、苦慮している旨の話をお聞きしました。学校事務 に関する研修が、教育センターの所管になるかはわかりませんが、現場か らの声としてお伝えしておきます。 ＜ ICT 活用・情報教育について ＞ ◎ICT 活用の推進に向けた取り組みや、研修体系の充実は高校現場でも高く 評価されています。
相談・支援 事業	＜ 特別支援教育について ＞ ◎特別支援教育については、日頃の実践上の課題や悩み等を持ち寄ったカン ファレンス形式の研修は大変有効であると思う。その際、適切な助言者を 立てることも必要だが、多様なステージの教員間で意見を交流することも 有効であると思う。 ◎特別支援教育の推進に係り、教育センターにおける研修の充実に向けた取 組みに感謝申し上げます。今後も連携を図りながら、施策を進めていき たいと考えますので、情報交換等密に行っていきたいと考えます。 ◎教育センターにおいて、特別支援学校の授業づくり講座（ICT 活用）を実 施していただき、たいへんありがたかったです。ありがとうございました。 ＜ 教育相談について ＞ ◇「ICT の利活用に関する研究において、メタバース空間の利用や ICT に よる心のケアについて研究している。」と回答されているが、ぜひそのよ うな研究について、情報共有いただき、協力・連携して進めていきたい。 ◇不登校は本県の大きな課題です。様々な課題を抱えている保護者や子供た ちのためにも、ICT を活用した不登校対策が必要なのではないかと思いま す。面談で安心した相談になることも理解できますが、ICT 等での相談を したいという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ご検討をよろしく お願いいたします。 ＜ 山形教育 ＞ ◇更なる業務効率化とより多くの教職員に教育情報を提供するために、「山 形教育」については電子化し、無償で提供することを検討されてはどうか でしょうか。1000 人程度の購読者ではもったいない内容と労力と思いま す。

2 山形県教育センターへ期待することや要望等

経営全般	◎私も、業種は違えど、現場が最も大切だと思っております。現場の要望を組んだ研修等を企画立案いただけるよう期待いたします。引き続き、山形県の教育発展のために、児童生徒・先生のため、ご尽力くださるようお願い申し上げます。 ◇教育センターの運営に当たっては様々な会議等を開催されているが、真に必要な会議か精選し実質的ではないものは大胆に省略する、どうしても必要な場合はオンラインにしたり参集人員を厳選する、など、会議の回しに労力を割くのではなく、本来業務たる研修・研究に注力できるよう積極的にマネジメントされることを希望する。 ◇全国学力学習状況調査のテストの点数や質問紙を精緻に分析し、課題を明らかにしたうえで、どのような施策を構築すべきか、提案していただきたい。 ★今後とも新採支援事業等、県事業での連携をお願い致します。 ★研修受講履歴入力管理については効率性の面から必要があると考えます。 ★様々な研修ニーズに対応するためのマンパワーの不足と業務量の増大が懸念されます。人員（定数）の確保・拡充と、指導主事の皆さんが専門分野を深める時間的な余裕が生み出されるよう、一層のご尽力を期待いたします。 ★全国高等学校長会では、①やむを得ない事情（感染症、入院、交通遮断等）により登校できない生徒に対するオンライン授業、②不登校生徒に対するオンライン授業について、環境整備が遅々として進まない都道府県が多いことが課題として挙げられています。どこまでが県教委（教育センター等）の役割で、どこからが学校の役割なのかについても考え方がまちまちです。学校の小規模化に伴うオンライン配信とともに、上記課題に対し、現場（校長会等）と県教委との間で交通整理が必要と感じています。（これは感想です）
研究・研修事業	＜ 研修について ＞ ◇よく練られた講座等を教員にもっと積極的に活用してもらうことが重要であり、「教員が身近に感じる教育センター」のために、市町村教育委員会や管理職等への周知方法等について検討する必要がある。 ◇管理職やミドルリーダーと呼ばれる教員の、教員研修体系そのものへの理解を深め浸透させることも、教員の質の向上の点では重要であると思っています。「全国教員研修プラットフォーム」の有効活用なども含め、管理職（校長会や教頭会）が一層認識を深め、人材育成に当たっていくことが大切であると思っています。 ◇学校マネジメント講座等の大学との連携につきましても、継続・発展していただければ幸いです。 ◇山形県の各教育課題解決に向けた講座の開設や質と量などを検討する必要があるのではないか。例えば、増加する若手教員の授業力の向上、更には県の新採支援事業へのフォローアップ、（新採で専科指導するための力量形成や採用2年目での担任力の育成など）併せて、算数・数学等の学力向上策へ寄与する研究、講座等の開設なども県教委と協議の上、検討の余地があるのではないかと思われる。（授業づくりに関して、県の指導が若干錯綜していたのではないかと。山形県としての授業づくり、スタイルの確立が急がれる）

	◇教材研究等に関する講座は設定されているが(授業づくりが学力向上につながるという考え方は理解できるが)、県教育委員会の喫緊の課題である「学力向上」に特化した(ストレートに反映した)研修内容を盛り込んでいくことも検討していく必要があるのではないかと考える。 ◇リスクマネジメント、クライシスマネジメント、としてNITSで実施しているような危機管理に関する研修など出来ないものでしょうか。NITSでは、民間の危機管理会社から講師を招き、ポジションペーパーの作り方から記者会見の行い方まで指導がありました。が学校を取り巻く昨今の状況を考えると、主任や管理職の先生方に必要なのではと感じています。 ◇教師の接遇に関するスキルアップの講座などがあればありがたいと思います。電話の応対、敬語の使い方、公的な文書の作り方等々。ベテランの教員でも、公務員としての基本的な部分が抜けている状況も時折見受けられます。新規採用教員も含め、ご検討いただければと思います。 ＜ ICT 活用・情報教育について ＞ ◇ICTの活用については、今後より高度な段階へと進んでいくものと思われます。ぜひ、効果的な活用方法についての研究・研修を進めていただけますようお願いいたします。 ◇今後は、授業においても、教員の業務遂行においても、生成AIを効果的に活用していくことがさらに求められていくことと想定しています。「授業における生成AIの効果的な活用方法」や、「校務における生成AIの効果的な活用事例」、さらに「生成AIを活用する際のリスクとリテラシー能力の育成」等について、今後も研修内容の充実と周知・普及を図っていただけるとありがたいと思います。 ◇1人1台端末の更新・整備が進められることに伴い、使用OSがWindowsからChromeに変更する市町村が多くなるため、Chromeの導入に係る研修の実施や授業での活用事例等について情報発信をお願いしたい。 ◇ICTの利活用について、教育系のシンクタンクや大学と連携する等により、常に新たな情報を収集して、県としての先進的モデルを示していただきたい。 ◇評価委員会でも申し上げましたが、CBTについて、検査そのものをセンターとして行うまではしなくても、一般の教員が作成できるようなソフト(システム)の開発が出来ないものかと思います。グーグルなど一般に出回っているソフトも多々ありますが、県として誰でも活用できるような(自作の問題をCBTとして各自が実施できるような)フォーマットがあればありがたいと思いました。また、そうした問題をストックできるようであれば、様々な活用が可能かとも思います(著作権の問題もあります)。ご検討いただければありがたいです。
相談・支援事業	＜ 特別支援教育について ＞ ◇ネットを使った情報の発信・収集が盛んである昨今、特別支援教育に係る情報を必要としている教員や保護者等が、パソコンやスマホ等を使って効率よく必要な情報にアクセスできるよう、県教育局特別支援教育課や各特別支援学校等と連携しながらホームページ等による発信や情報提供等の充実に取り組んでいただけるとありがたい。

◇特別支援学級の増加を踏まえると、特別支援学級を担当する教員への研修の充実が求められます。特別支援教育課では、各校における校内研修のさらなる充実について機会を見て呼びかけていきますが、一方で、担当者等の自己研修を促す仕組みも必要と考えています。一つの手だてとしては、特別支援教育に係る各種コンテンツを作成し、オンデマンドによる自己研修を可能にすることが挙げられます。そのコンテンツづくりを連携しながら進めることができると良いかと思います。

< 教育相談について >

◇電話や来所、メールでの相談に加え、コロナ禍以降急速に発展した ICT について、ぜひ相談支援においても活用できるよう検討いただきたい。

◇本年度、山形市 PTA 連合会で「いのちの大切さ学習会」を開催しました。テーマは「子供を犯罪から守るために」～少年の非行及び被害の現状から～で、山形県警察本部の担当者から少年非行や被害の現状について、「最新の情報」や「具体的な対策」等のお話を伺いました。ネットの身近な犯罪や闇バイトなど、子供たちを取り巻く環境を危惧しています。こうしたことを防ぐために、様々な対策が必要ではないでしょうか。教員向けの研修があればと考えています。どうぞよろしくお願いします。